

聖書日課 『からし種』 2018.12.9~12.16

<p>9日 (日)</p> <p>ローマ 14章</p>	<p>「神の国は飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」(17節)。神の前に不完全な者同士が裁き合う、何という愚かさ。それよりも、罪人のために死なれたキリストの「義」を感謝して受けとり、すべての民の間に「平和」を広げていく「神の国」を「喜び」、共に賛美をささげて生きていこう。</p>
<p>10日 (月)</p> <p>ローマ 15章</p>	<p>「希望の源である神が、信仰によって与えられるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように」(13節)。わたしたちを生かす「希望と喜びと平和」は神からくる。飼いや葉桶の中に生まれた赤ん坊が、私たちの間で決して消えることのない「灯」となり、教えてくださった真実。</p>
<p>11日 (火)</p> <p>ローマ 16章</p>	<p>「主に結ばれている者らしく彼女(フェベ)を迎え入れ、あなたがたの助けを必要とするなら、どんなことでも助けてあげてください」(2節)。この16章を読んでいると、パウロの伝道旅行を通して生まれた各地の教会間、信徒間の祈りのネットワークが見えてくる。「主に結ばれた者」は、助け、支え合う「新しい家族」に結ばれる。</p>
<p>12日 (水)</p> <p>I コリント 1章</p>	<p>「世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。…そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです」(21節)。「愚かな手段」とは「キリストの十字架」のこと。非のない者が十字架の辱めを受けることは「愚か」以外の何ものでもないが、その「愚かな十字架」にこそ神の愛は示された。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com 大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

<p>13日 (木)</p> <p>I コリント 2章</p>	<p>「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト以外、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」(2節)。「十字架につけられしままなるキリスト」(岩波訳)。キリストは今も、私たちの間で不条理の苦難を引き受け、「弱い時にこそ強い」という逆説の福音、神の力をあらわし続けておられる。</p>
<p>14日 (金)</p> <p>I コリント 3章</p>	<p>「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです」(9節)。「成長させてくださる神」(7節)のもとで個性ある私たちは組み合わされ、「植える者」と「水を注ぐ者」はそれぞれの働きを補い合い、神のために働く者とされる。一日の終わりに、栄光をすべて神にお返しできるように。</p>
<p>15日 (土)</p> <p>I コリント 4章</p>	<p>「侮辱されては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉を返しています」(12-13節)。パウロの宣教は、飢え、乾き、侮辱を受け、「見せ物」「愚かな者」とされる連続だったが、彼は怒りや憎しみではなく祈りで対応した。その信仰を背後で支え続けた、主イエスの神への祈りと信従の足跡を覚えたい。</p>
<p>16日 (日)</p> <p>I コリント 5章</p>	<p>「古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストがわたしたちの過越の小羊として屠られたからです」(7節)。主の前で、いつも新たにされる。日毎に、主の赦しによって新しくされている者として、世の中で主の恵みに応答して生きる者とされたい。</p>